

町文化財指定状況

町文化財

1. 町文化財指定状況

R7.10.4現在

No	名 称	指 定 区 分	所 在 地	管 理 者	指 定 年 月 日
1	関ヶ原古戦場 附・徳川家康最初陣地 徳川家康最後陣地 石田三成陣地 岡山烽火場 大谷吉隆墓 東首塚 西首塚 開戦地 決戦地	国 史 跡	関ヶ原町大字野上字桃配 " 大字関ヶ原字陣場野 " 字合川 " 字岡山 " 大字藤下字中尾 " 大字関ヶ原字福井 " 字柴の内 " 大字関ヶ原字神田西田 柴の内、西甲斐墓 " 大字関ヶ原字一二ノ湯	町	昭和6年3月30日 文部省告示 第115号
2	関ヶ原本陣跡スダジイ	町、県 天然記念物	関ヶ原町大字関ヶ原	町	昭和35年12月15日 関天第 4号 昭和37年 2月12日 岐天第45号
3	聖蓮寺の八房梅	町、県 天然記念物	" 大字今須	聖蓮寺	昭和35年12月15日 関天第 1号 昭和37年 2月12日 岐天第47号
4	八葉形半鐘	町、県 重要文化財	" 大字今須	聖蓮寺	昭和54年 5月10日 関重第20号 昭和55年 1月18日 岐重第450号
5	長江氏墓	町、県、史跡	" 大字今須	妙心寺	昭和35年12月15日 関史第 3号 昭和37年 2月12日 岐史第84号
6	不破関跡	町、県、史跡	" 大字松尾	個人	昭和44年 6月21日 関史第15号 昭和45年 4月 7日 岐史第122号
7	聖蓮寺の四季丁字桜	町、天然記念物	" 大字今須	聖蓮寺	昭和35年12月15日 関天第 2号
8	月見宮大杉	町、天然記念物	" 大字松尾	松尾自治会	昭和36年 8月 5日 関天第 7号
9	旧中山道松並木	町、天然記念物	" 大字野上	町	昭和39年 6月25日 関天第 9号
10	岩倉山鍾乳洞	町、天然記念物	" 大字玉	個人	昭和43年 6月22日 関天第13号
11	藤古川のホタル	町、天然記念物	" 河川全域	町	昭和43年 9月 1日 関天第14号
12	下明谷のカエデ	町、天然記念物	" 大字今須	個人	昭和47年 4月17日 関天第19号
13	自害ヶ峯の三本杉	町、天然記念物	" 大字藤下	町	昭和47年 4月17日 関天第18号
14	藤下若宮八幡神社本殿	町、重要文化財	" 大字藤下	氏子総代	昭和38年 8月10日 関重第 8号
15	日本武尊居寤清水	町、史跡	" 大字玉	町	昭和43年 6月22日 関史第12号
16	松尾山城址	町、史跡	" 大字松尾	個人	昭和47年 4月17日 関史第17号
17	島津義弘陣地跡	町、史跡	" 大字関ヶ原	町	昭和59年 2月22日 関史第20号
18	妙心寺文書	町、重要文化財	" 大字今須	妙心寺	昭和59年 2月22日 関重第21号
19	関ヶ原郷名田文書	町、重要文化財	" 大字関ヶ原	個人	昭和59年 2月22日 関重第22号
20	今須門間八幡神社本殿	町、重要文化財	" 大字今須	氏子総代	平成15年 9月12日 関重第24号
21	関ヶ原合戦図屏風	町、重要文化財	" 大字関ヶ原	町	平成29年 3月21日 関重第25号
22	今須宿問屋場(旧山崎家住宅)	町、有形文化財	" 大字今須	町	令和 7年 2月17日 有第 1号

国史跡（関ヶ原古戦場）

徳川家康最初陣地



徳川家康最後陣地



石田三成陣地



岡山烽火場



大谷義隆墓



東首塚



西首塚



開戦地



決戦地

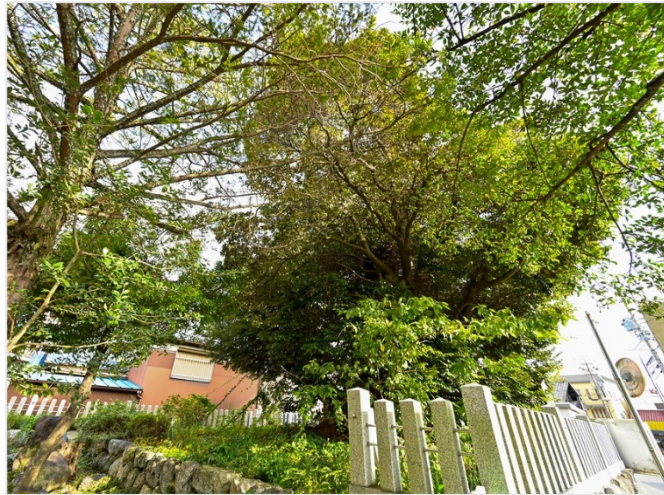


県関係

関ヶ原本陣跡スタジイ（天然記念物）

< 概 要 >

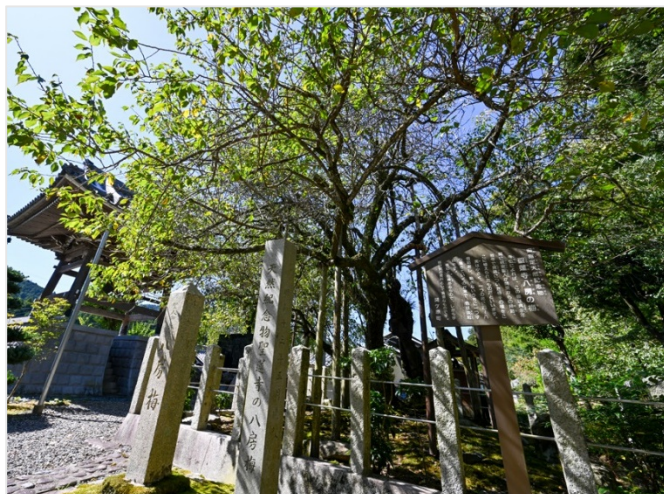
常緑高木「スタジイ」は椎の一種です。一般に大木・古木となる性質で長円形。果実はどんぐり状で食用になります。材は健材・家具材・椎茸の原木などにもなり、樹皮は染色に用いられます。ここはかつて関ヶ原宿本陣の庭の一角にあたり、江戸時代より時代の流れを見つめてきたこの木は正に樹木の王様といえるでしょう。



聖蓮寺の八房梅（天然記念物）

< 概 要 >

寺伝によれば、この梅は貞永年間（1232～1233）に親鸞聖人が関東からの帰路、当寺で食膳についた梅干の種をここに植えられたものだといえます。実は小さく、1つの花に4～8個結実し、熟さないうちに1つずつ落ちていくのが常で、色は淡紅色です。信仰上由緒あるもので、しかも学術研究の資料として貴重なものです。



八葉形半鐘（重要文化財）

< 概 要 >

この半鐘は大正15年（1926）に、朝鮮総督府の高官であった養老郡牧田村（現大垣市）平井出身の高木徳弥氏が、当寺へ寄進されたものです。太平洋戦争で供出されたものの、文化財として返還となりました。

高さ：69cm 厚さ：3.4cm 製造年：隆慶五年（1571）（中国明時代）・通称「支那鐘」



長江氏墓（史跡）

< 概 要 >

長江氏は、相模国長江住人鎌倉権五郎景政を祖としており、承久の乱（1221）後、秀景が鎌倉からここ今須に移住しました。その後、子孫は今須郷の領主として、二百数十年の長きにわたり勢力を保ってきました。正平15年（1360）に重景は母妙応の菩提を弔うため、ここに妙応寺を創建しています。

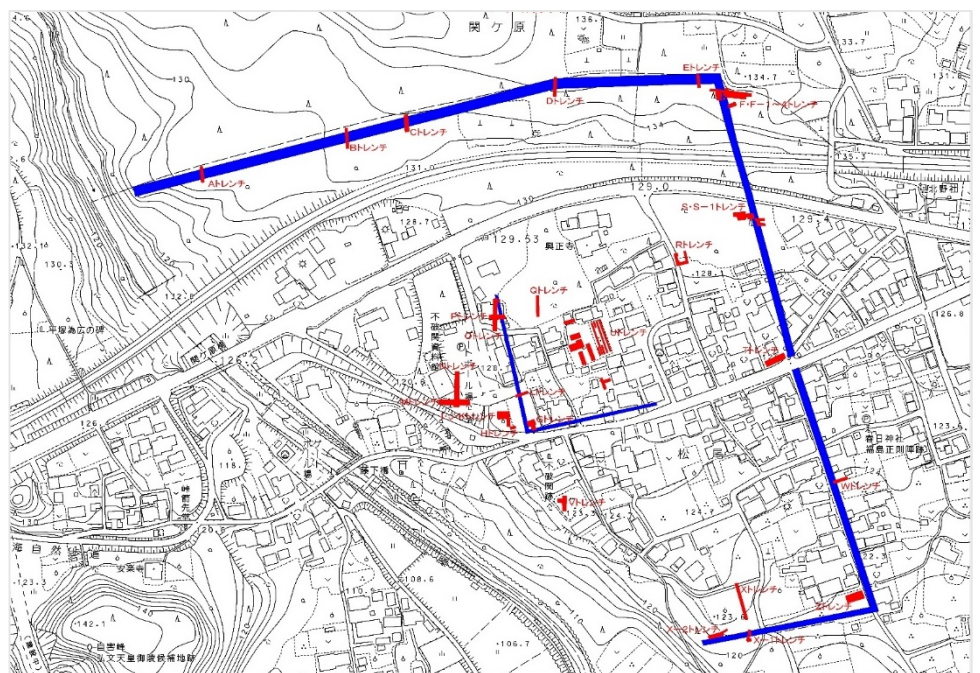


不破関跡（史跡）

< 概 要 >

「木曾路名所図会」にも描かれている関藤川より大木戸坂を登り切った辺りのこの一帯が、関守の屋敷跡です。関守は延暦8年（789）の関の停廃以後に任命されたと考えられます。

関守宿舎は、関守跡推定地の西南隅に東山道を挟んで位置する、段丘際の眺望の良いところにあり、格好な地にあったと言えます。



町関係（主なもの）

聖蓮寺の四季丁字桜（天然記念物）

< 概 要 >

この桜は春夏秋冬を通じて開花しますが、冬期雪中花を咲かせる様子は、まことに奇観といえましょう。4・5月には葉に先立って花弁の小さい淡紅色の五弁花を下垂してつけ、花型が丁字形に見えるので、この名があります。希に見るこの種の桜は、学術研究資料として貴重な存在です。



月見宮大杉（天然記念物）

< 概 要 >

この杉の巨木は関ヶ原合戦図屏風にも描かれていて、樹齢は800年余りと推定されます。平安の御代より、長く時代の変遷を見つめてきたとは驚嘆に値します。その記録は幹の年輪に刻まれています。目通り約5.8m、高さ25mと、貝戸大神宮大杉に次ぐ、正に杉の横綱です。



旧中山道松並木（天然記念物）

< 概 要 >

江戸時代には、一里塚をつなぐ街道両側に、松・杉・楓などの並木があって、その木陰はしばしの憩いの場所となっていました。

しかし、虫害や松木の減少が目立ってきました。そのため町では、天然記念物に指定し、防虫対策や捕食により、その保護につとめています。



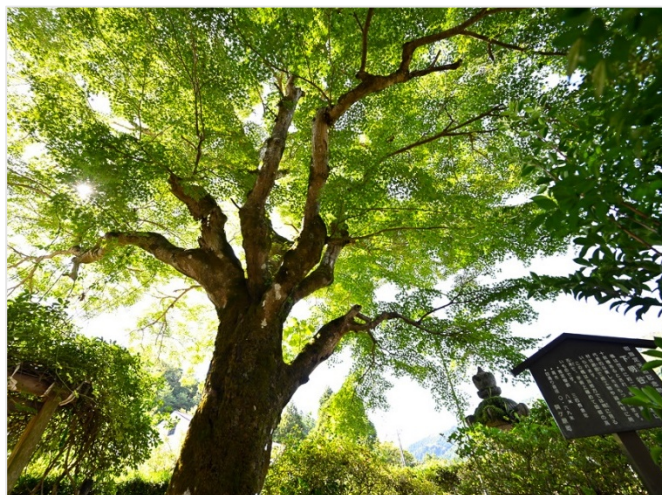
下明谷のカエデ（天然記念物）

< 概 要 >

楓は世界に約200種、日本に10種類以上あるとされ、その紅葉は、代表的な美しさをもっています。材は緻密で細工物や器具材に用いられます。

この楓は当地方では稀に見る古木で、学術上極めて価値の高いものです。

推定樹齢300年あまり、高さ8m、目通り直径69cm



自害ヶ峯の三本杉（天然記念物）

< 概 要 >

壬申の乱（672）は天智天応の子大友皇子と同天皇の実弟大海人皇子との間で起きた皇位継承争いでした。

その戦は、この辺りから始まり、その後近江の瀬田で大海人軍は大友軍を破ったのです。ここは、自害された大友皇子の頭が葬られていると伝えられ、弘文天皇御陵候補地です。



藤下若宮八幡神社本殿（重要文化財）

< 概 要 >

本社の創建は定かではなく、「若宮八幡社御縁記」によると元応11年（1320）に弘文天皇を祭り、応永11年（1404）と明応9年（1500）に社殿修繕がみられます。

また、明治11年の棟札目録では、天文22年（1553）にも造営修理の記録がみられ、本殿は檜皮葺の桃山様式の極めて貴重な建造物です。



松尾山城址（史跡）

< 概 要 >

応永年間（1394～1428）小守富島氏城を築く（築城史料初見）、永禄12年（1569）信長に帰属、元龜6年（1570）浅井長政修築、天正元年（1573）信長、浅井氏討伐後、不破光治を警備に当たらせる、天正4年（1576）境城の使命終る。

天正7年（1597）廃城。慶長5年（1600）秀秋陣所とする。



島津義弘陣地跡（史跡）

< 概 要 >

戦国の雄・島津軍団1,000人を率いた義弘は、北国街道をおさえるため、ここ小池村に陣をかまえました。西軍がことごとく敗退する中で、「西軍に島津有り」の勇姿を家康に見せつけるため、義弘は最後の賭に出たのです。「背進」を最強の武器に変えたその決断こそ、現代にまで語り継がれる「敵中突破」なのです。



妙応寺文書（重要文化財）

< 概 要 >

室町時代、妙応寺を創建した長江重景に関係する系譜などが記された12通の中世文書。重景から子孫にかけての妙応寺に対する田地、屋敷並に山林等の寄進なども記され、今須地区の領主であった長江氏、妙応寺の創建に関わる当地域の歴史を知るための貴重な史料である。

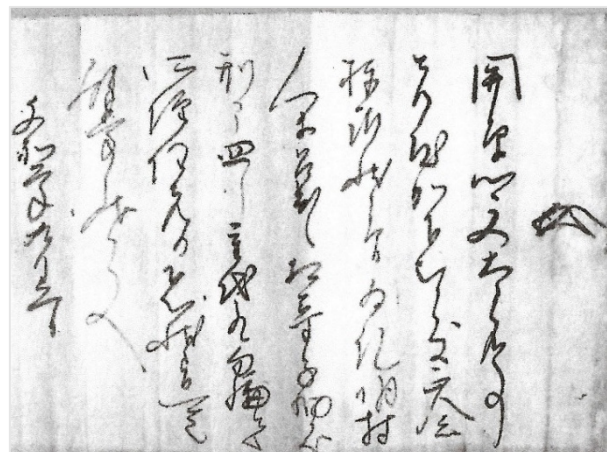


応仁2年（1468）長江家系譜
妙応寺所蔵

関ヶ原郷名田文書（重要文化財）

< 概 要 >

鎌倉時代（13世紀）の、関ヶ原の荘園公領制の様相を示す中世文書である。文書5通のうち1通は、文保元年（1317）の下知状であり、「関原」の地名が初めて確認できる文書として注目される。また、不破関周辺が国衙領であったことを示す貴重な資料である。



文和2年（1805）某袖判百姓職安堵状
個人所蔵

今須門間八幡神社本殿（重要文化財）

< 概 要 >

中山道の今須宿問屋場近くに「八幡神社」の石の鳥居がある。創建は、暦仁元年（1238）。鎌倉から鎌倉三熊野権現の一社をここへ鎮座したのが始まりとされる。

本殿は嘉永2年（1849）に一間社流造り、桧皮葺きで建造と伝わる。江戸期に流行した主題を取り入れている。



関ヶ原合戦図屏風（重要文化財）

< 概 要 >

関ヶ原合戦図屏風は、狩野梅春が彦根藩に依頼され、描いた元絵を嘉永7年（1854）、翫月邸我山という絵師が模写したとされる。本屏風の歴史的価値として、江戸時代中期の軍記物を典拠として描かれている点があげられる。人物の表情は、陰影を意識して立体的に描かれ、人物の動きは躍動的に描かれている。



嘉永7年（1854）関ヶ原合戦図屏風
関ヶ原町歴史民俗学習館所蔵

今須宿問屋場（旧山崎家住宅）（有形文化財）

< 概 要 >

今須宿問屋場は、美濃16宿の問屋場のうち唯一の遺構といわれているもので、多くの荷物を扱う広い板の間と吹き抜けの広い土間を備えた、問屋場としての特色を持つ規模の大きい建物です。

調査により建築年代が文政11年（1828）と明らかになり、当時のこの地方の建築技術や材料、構法等を今に伝えており、非常に貴重なものです。建物内部の居間の柱や鴨居には、明治2年（1869）の今須騒動の際の刀傷や鎌跡も残ります。

